

Shell Omala S4 WE

シェル オマラ S4 WE

- ・ロングライフ
- ・高温・高荷重対応
- ・省エネルギー
- ・グローバルスタンダード
- ・合成油

シェル オマラ S4 WE は、鉱油系潤滑油と比べ多くの利点を有しているポリグライコール系合成潤滑油です。鉱油と比べ寿命がきわめて長く、特に高温・高荷重下で稼動するギヤ、軸受、チェーンなどへの潤滑油として適した性能を有しています。

製品性能と特徴

● メンテナンス低減ーロングライフ

シェル オマラ S4 WE は、ポリグライコールを基油としているため、鉱油が使用できない高温運転条件下(120°C程度まで)でも長期間にわたり使用できます。また、スラッジの生成がきわめて少ない特徴を有し、多くのギヤメーカーから推奨されています。

✓ 錆や腐食の発生を防止

シェル オマラ S4 WE には、防錆・防食に効果がある添加剤を配合していますので、金属面を保護膜で素早く被うことで錆や腐食から機器を守ります。

● 優れた高荷重性能

シェル オマラ S4 WE は、FZG 歯車試験で、12 ステージに合格しており、鋼／鋼接触の一般工業用ギヤに対しても極圧ギヤ油としても使用できます。

● 優れた省エネルギー性能

シェル オマラ S4 WE は、銅合金／鋼のウォームギヤの潤滑では非常に低い摩擦係数を示し、省エネルギー効果、機械効率の向上が期待できます。

● 広い温度域に対応

シェル オマラ S4 WE は、温度による粘度変化が少なく、かつ低温流動性が優れているので、広い温度域で使用することができます。

● 広い使用用途

- ・製紙機械、プラスチック工場のカレンダーロールなどの過酷な条件(120°C以上)のギヤや軸受の潤滑
- ・銅合金／鋼のウォームギヤの潤滑
(一般鉱油に比べ、20°C~30°Cの温度低下が期待できます。)
- ・高温・高荷重で使用される、減速機・軸受の潤滑
- ・熱処理炉などの高温チェーンの潤滑

● 適合規格

DIN 51517-3 (CLP)
Bonfiglioli

シェル オマラ S4 WE 代表性状*							
油種	項目	密度 (15℃) g/cm ³	引火点 (開放式) ℃	流動点 ℃	粘度 mm ² /s		粘度 指数
					@40℃	@100℃	
	シェル オマラ S4 WE 150	1.076	268	-40.0	150	23.5	188
	シェル オマラ S4 WE 220	1.074	278	-37.5	220	34.2	203
	シェル オマラ S4 WE 320	1.069	270	-37.5	320	52.6	230
	シェル オマラ S4 WE 460	1.072	268	-35.0	460	73.1	239

*代表性状値は、商品の改定により、予告せずに変更場合があります。(2016-01)

シェル オマラ S4 WE の販売荷姿 : 209Lドラム缶(220のみ) 20Lペール缶

■ 使用上の留意点

- ・鉱油及びグリースとの混合使用は避けるようにしてください。
- ・一般の耐油性シール材(ニトリル、フッ素、シリコン系等)との適合性は問題ありませんが、ウレタン及び天然皮革との適合性には問題となる場合がありますので、注意が必要です。
- ・二液性塗料については問題ありませんが、一液性塗料の場合は事前にチェックしてください。
- ・アルミ青銅との適合性はメーカー指示に従ってください。
- ・ご使用にあたっては、事前に安全データシート(SDS)をご覧ください。
- ・製品の海外輸出に際しては、輸出貿易管理令の該非判定だけでなく、その他の要件によって日本政府当局への許可申請が必要になる場合があります。また、仕向国の法規等により輸入制限を受ける場合がございます。製品を自ら輸出されているお客様は、この点をご理解の上ご自身の責任で必要な措置を講じるようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、ルブカスタマーサービスセンターまでお問い合わせください。

※本資料は、事業者様向けに作成されたものです。



取扱上の注意 ▼下記の注意事項に従ってお取扱ください。

＜取り扱い上の注意＞	
【安全対策】	・使用前にカタログ、SDS を入手し、全ての安全情報を読み理解するまで取り扱わないこと。 ・取り扱う際は保護具を使用すること。
【応急措置】	・飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。 ・無理に吐かせないこと。 ・飲み込むと下痢・嘔吐を起こすことがあります。 ・目に入ると炎症を起こすことがあります。目に入った場合は、清浄な水で最低 15 分間洗浄し、医師の手当てを受けること。 ・皮膚に触れると炎症を起こすことがあります。皮膚に付着した場合は、水と石鹸で十分に洗うこと。
【保管】	・直射日光を避け、換気の良い場所に保管すること。 ・ゴミ、水分などの混入防止のため使用後は密栓して保管すること。
【廃棄】	・内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。具体的には、都道府県知事等の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。 ・不明な場合は購入先に相談の上処理すること。

Ver.2. 2019.12.2